

## 地方独立行政法人長野県立病院機構 平成27年度年度計画の概要

長野県立病院機構

### 1 概要

独法化から5年目を迎え、第1期の最終年度である平成26年度年度計画では、「良質な医療の提供で地域に貢献する病院機構」をテーマとして、これまでに浮き彫りになった様々な課題や自らの使命・責務を見据えるとともに、医療制度改革に対応すべく、医療機能の充実、経営戦略の構築及び人材の確保・育成など各分野における当機構独自のシステム（基盤）づくりを重点的に取組んできた。また、第1期中期計画の達成に向け機構全体で意識の共有を図るとともに、スピード感を持ちながら、常に変化する多様な医療ニーズに、着実に応える病院機構づくりに取組んできた。

平成27年は第2期中期計画期間が始まることから、予防から介護まで地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進するための取組や、常時満床傾向にあるこども病院のP I C U（小児集中治療室）の拡充、大学院と連携し臨床業務に従事しながら大学院における研究活動を行える環境など、県立病院機構が地域の医療を守りながらさらに飛躍するための取組を盛り込んだ。また、平成27年度の県立病院機構運営目標を「第2期中期計画の初年度である平成27年度は常に最新の情報収集に努め、的確な判断と迅速な対応により医療制度改革や新たな医療需要に応えるとともに、安全で質の高い医療サービスを安定的に提供してまいります。」と定め、常に変化する多様な医療ニーズに応えるべく必要な事項について定めることとした。

### 2 平成27年度年度計画のポイント

#### (1) 人口減少や少子・高齢化を見据えた医療の提供

→児童精神科の充実（こころ駒ヶ根）、在宅医療と介護の連携推進（阿南）、公共施設での地域巡回リハビリテーションの開催（木曾）、P I C U（小児集中治療科）の整備に向け事業に着手し病床数の不足へ対応（こども） 等

#### (2) 医療・保健・福祉などとの連携による地域全体の医療機能の向上

→消化器外科チームの再編（須坂）、内視鏡検査の積極的な実施と内視鏡センターの機能拡充に向け事業に着手（須坂）、認知症サポート医及び認定看護師が地域の医療機関に協力して認知症医療を推進（こころ駒ヶ根）、地域包括ケアシステム構築関係事業への参画（阿南）、隣接医療圏の医療機関との連携を強化し地域における高度専門医療を充実（木曾）、口唇口蓋裂センターでは地域の医療機関と連携し全県の患者に質の高い医療を提供（こども） 等

#### (3) 医療従事者の確保・育成機能の充実と看護人材の安定的かつ継続的な育成

→連携大学院設置に向けた検討（こころ駒ヶ根、こども）、日本専門医機構の小児科専門研修基幹施設への指定のための取組（こども）、5病院の特色ある信州型総合医育成プログラムにより研修医を確保（須坂、全病院及び研修センター）、認定資格等の取得を奨励及び専門研修への派遣を計画的かつ積極的に実施（全病院及び本部）、基礎研修から専門研修まで含めた研修の実施と研修カリキュラムを構築（研修センター）、信州木曾看護専門学校運営及び学校における看護人材の育成 等

#### (4) 安心・安全な医療の提供による患者サービスの向上

→、病院機能評価認定の受審（こころ駒ヶ根）、糖尿病治療及びがん診療機能の強化・充実（木曾）、病棟薬剤業務の実施や薬剤管理指導業務の充実（全病院） 等

#### (5) 地方独立行政法人の強みを活かした確実な病院運営の継続（全病院及び本部）

→県が策定する地域医療構想（ビジョン）に対する的確な対応、県内各地で「公開講座」及び「出前講座」の開催、医薬品・診療材料の購入に当たり価格動向の情報収集などにより経費を削減、各種プロジェクトチーム、診療情報管理士連絡会等の活動の継続、D P C（診断群分類包括評価）等各種データを活用し経営状況の分析などを実施 等

## 平成27年度年度計画案の概要（機構全体）

### I 平成27年度長野県立病院機構業務運営目標

第2期中期計画の初年度である平成27年度は常に最新の情報収集に努め、的確な判断と迅速な対応により医療制度改革や新たな医療需要に応えるとともに、安全で質の高い医療サービスを安定的に提供してまいります。

### II 年度計画

#### 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

##### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

須坂病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ④ 内視鏡検査の積極的な実施と内視鏡センターの研究・技術水準の向上及び機能拡充に向け事業の着手</li> <li>・ 専門外来などによる多面的な医療の提供</li> <li>・ ① 消化器外科チームの再編</li> <li>・ 血液内科医、健康診断専任医師、泌尿器科医（非常勤）等の確保</li> <li>・ ① 妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療を提供する母子医療センター開設に向け検討</li> <li>・ 感染症医療の提供</li> <li>・ がん診療機能の提供</li> </ul>
こころの医療センター 駒ヶ根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精神科救急医療の提供</li> <li>・ ④ 児童精神科の初診受入体制の強化及び心理検査・心理面接体制の充実</li> <li>・ 依存症医療の提供</li> <li>・ 総合治療病棟の医療の提供</li> <li>・ 医療観察法に基づく医療の提供</li> <li>・ ① チーム医療体制の確立（病棟薬剤業務の充実）</li> </ul>
阿南病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ④ 在宅医療と介護の連携などによる地域医療の推進</li> <li>・ ④ 地域医療総合支援センターの充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>① ① 認知症専門外来・院内デイサービスの実施</li> <li>② ① 認知症カフェなどによる認知症患者・家族への支援</li> </ul> </li> <li>・ ④ リハビリの拡充</li> </ul>
木曾病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ① 公共施設での地域巡回リハビリテーションの開設</li> <li>・ ④ 糖尿病専門医（非常勤）の確保</li> <li>・ ① 地域がん診療病院指定に向けた取組</li> <li>・ ④ がん診療機能の向上</li> <li>・ 救急医療の提供</li> <li>・ へき地医療の提供</li> <li>・ 災害対策の推進</li> </ul>

こども病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院間連携及び病院間搬送事業体制の推進</li> <li>・<b>④</b> 在宅医療連携拠点事業による医療・福祉ネットワークの構築</li> <li>・<b>④</b> 長野県の小児重篤患者の受入体制を強化するためPICU（小児集中治療室）の整備に向け事業の着手</li> <li>・<b>④</b> 在宅人工呼吸器装着患児の救急情報連絡カードの運用</li> <li>・発達障がいなど子どもの心の診療</li> <li>・出生前心臓診断ネットワークの推進</li> <li>・先天性心疾患を持つ成人患者への診療の提供</li> <li>・<b>④</b> 遺伝子関連検査機能の強化と遺伝カウンセリング・フォローアップの推進</li> <li>・<b>④</b> 新生児仮死の児や先天性奇形のある児に対する診療体制の充実</li> <li>・<b>④</b> 早産・多胎妊婦など産科外来の充実</li> <li>・<b>④</b> 食物アレルギー診療体制の充実</li> <li>・小児がんの診療機能の推進</li> </ul>
-------	---

## 2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

### （地域の医療機関との連携等）

- ・地域包括ケア病棟から在宅への円滑な退院や行政による「もの忘れ相談」から病院への早期受診等を勧めるため行政、医療、福祉で構成する定例会議に参加するとともに、引き続き地域連携クリニカルパスを活用（須坂病院）
- ・**④** 地域連携機能強化のため、副院長直轄の組織に再編するなど地域連携の機能を強化（こころ駒ヶ根）
- ・**④** 児童相談所、福祉・教育機関、小児関係医療機関等と定期的に会議を行い、児童精神科医療の役割分担を明確化し、効果的な医療を提供（こころ駒ヶ根）
- ・**④** 認知症サポート医、認定看護師が地域医療機関に協力し、地域での認知症医療を推進（こころ駒ヶ根）
- ・**④** 飯田医師会や下伊那南部保健医療協議会が進める地域包括ケアシステム構築関係事業への参画と、在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化（阿南病院）
- ・**④** 町村や認知症サポーターなどと連携した、認知症を地域で支える体制づくりの推進（阿南病院）
- ・対応困難な緊急を要する治療を確保するため、隣接医療圏の医療機関との連携を強化（木曽病院）
- ・患者退院後の家族の不安に応えるため、退院時カンファレンスを強化（木曽病院）
- ・口唇口蓋裂センターでは地域の医療機関とも連携し全県の患者に質の高い医療を提供（こども病院）
- ・県からの委託により、信州大学医学部及びこころの医療センター駒ヶ根などと共同し、医師などを県内10圏域ごとの研修会などに派遣し、県内の発達障がい診療体制の充実に寄与（こども病院）

### （5病院ネットワークを活用した医療機能の向上等）

- ・**④** 木曽病院に医師を派遣し木曽地域の精神科医療を充実（こころ駒ヶ根）
- ・平成27年度中に電子カルテの相互参照を目的とした「信州メディカルネット」へ参画し、診療情報の共有化による患者の利便性を向上（木曽病院）
- ・病院の助産師を木曽病院へ派遣し助産師の教育体制を充実（こども病院）

### 3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

#### (医療従事者の確保と育成)

- ・パンフレット、ホームページ等広報の充実、医療系職種養成学校の訪問活動、学生就職ガイダンスへの参加などにより医療系職種の採用活動の強化
- ・機構本部と病院が連携し大学医局との関係強化を進めるとともに、医師研究資金制度の活用などにより、県外からの医師確保を図る。
- ・研修医が容易にブログを更新できるホームページにリニューアルし、研修医の日常を発信することで魅力ある信州型総合医養成プログラムや各研修プログラムを広く紹介（須坂病院）
- ・信州型総合医養成指導の中核機関として初期研修医をはじめとする臨床研修医、若手医師、医学生、看護師、医療技術職員の育成とスキルアップを図るため、本部研修センターと密接に連携し、シミュレーション教育を積極的に取り入れた病院独自の育成プログラムを作成、実施（須坂病院）
- ・**新**医師等がスマートフォンでも閲覧可能なように病院ホームページを改修し医療従事者を確保（こころ駒ヶ根）
- ・診療情報管理士の資格のある職員の採用による、経営企画運営体制の充実（阿南病院）
- ・看護師・助産師のほか、事務職・医療技術職を含め、幅広い職種について機構の魅力を体験できるインターンシップ事業を展開
- ・看護師宿舎の改修、院内保育所の運営等により、職員が働きやすい環境を整備（木曽病院）
- ・**新**連携大学院設置に向けた検討（こころ駒ヶ根、こども病院）
- ・病院独自の支援制度により職員の研究、研究発表及び研修を支援（こども病院）
- ・**拡**海外の先進医療機関と連携した職員のインターンシップ研修の実施を検討（こども病院）

#### (研修体制の充実)

- ・基礎研修から専門研修まで含めた研修の実施と研修カリキュラムを構築し、職員の知識・技術を向上（研修センター）
- ・ハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへの機構職員の長期及び短期派遣などを通じ指導者の育成、キャリアアップを図るとともに、当該指導者を中心に各病院シミュレーション研修の実施（研修センター、5病院）
- ・研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施し、多様な医療ニーズに対応できる専門性の高い人材を育成（研修センター、木曽病院、こども病院）
- ・スキルスラボを活用したシミュレーション研修を実施（研修センター）

#### (医療技術の向上)

- ・医療技術向上と職員の資質向上に役立つ認定資格等の取得を奨励し、専門研修への派遣を計画的かつ積極的に実施
- ・県立病院での業務に活かせる知識・技術等を取得させるため、大学院等へ進学できる環境を整備

#### (医師の育成と定着の支援)

- ・ 信州型総合医養成指導の中核機関として、プログラムとスタッフの充実を図り、専門分野に特化した指導体制を強化し豊富な臨床の場を提供によってジェネラリストの養成と定着を推進（須坂病院）
- ・ ⑨平成29年度の精神科研修・研究センター設置に向けて設立準備室を設置（こころ駒ヶ根）
- ・ 「へき地医療臨床プログラム」に基づいた信州型総合医の養成による、地域医療を担う医師の確保（阿南病院）
- ・ ⑩指導医・専門医による診療科に捉われない指導及び地域に貢献できる幅広い診察能力を持った総合医の育成の取組を積極的に広報（木曾病院）
- ・ ⑪新制度の専攻医募集に向けた日本専門医機構の小児科専門研修基幹施設への指定のための取組の実施（こども病院）

#### (信州木曾看護専門学校の運営)

- ・ 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成
- ・ 教員等の安定的確保及び教育力の向上
- ・ 学生確保に向けた取組み
- ・ 地域関係団体等との連携・協力体制の構築
- ・ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

#### (医療水準の向上への貢献)

- ・ 須坂看護専門学校へ職員を講師として派遣するとともに、リハビリテーション科、栄養科等の実習生の積極的な受入（須坂病院）
- ・ ⑫認知症サポート医と新たに配置する認知症認定看護師が中心となった認知症対策の強化（再掲）（こころ駒ヶ根）
- ・ 信州木曾看護専門学校、県看護大学、須坂看護専門学校等へ職員を派遣し精神科医療について講義（こころ駒ヶ根）
- ・ 認知症看護認定看護師等による、「認知症なんでも相談室」での相談業務の充実と地域への啓発活動の実施（阿南病院）
- ・ 信州木曾看護専門学校への非常勤医師の派遣と実習生の受入（木曾病院）
- ・ 地域の医療機関の職員が参加できる小児リハビリテーションの研修会・学習会の開催、医師や臨床心理技術者などを対象とした発達障がい診療に係る研修会などへの職員派遣、エコーセンターにおける超音波診断に関する専門医・技術者等の人材育成（再掲）（こども病院）
- ・ 大学等の研究機関と連携した共同研究等への取組推進（こども病院）

#### (医療に関する研究及び調査の推進)

- ・ 全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続・参加（須坂病院、こころ駒ヶ根）
- ・ 共同研究等に積極的に参加し、医療水準向上を推進（木曽病院）
- ・ 厚生労働省や文部科学省の科学研究費を活用した臨床や遺伝解析などの基礎研究の取組を推進。大学等の教育研究機関と連携した共同研究等への取組を推進（こども病院）
- ・ スキルラボガイドブックやホームページ等を活用した広報活動を積極的に行い、スキルラボ、シミュレーターの利用促進（研修センター）
- ・ 県民の健康増進に寄与するため、県立病院で行った研究や調査の成果をホームページで公開、学会への参加、地域の懇談会、講演会、公開講座及び出前講座の開催

#### 4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

##### (医療安全)

- ・ 医療安全への取組状況を医療安全管理者が互いに実地確認し合う医療安全相互点検を引き続き実施し、医療安全の標準化と質の向上を図る
- ・ 県立5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を引き続き実施し、課題の把握を行い、改善策の立案や体制整備
- ・ 感染症発生時を想定した院内及び関係機関などとの間で伝達訓練などを実施（須坂病院）
- ・ 北信地域の医療機関と施設・職種の枠を超えて情報を共有し、地域の感染対策水準の向上に寄与するとともに、県内唯一の日本環境感染学会認定教育施設としての実績を生かし、「北信ICT連絡協議会」の運営（須坂病院）
- ・ ㊦ 病院機能評価を受審し医療の質の向上（こころ駒ヶ根）
- ・ 病院勤務医等の負担軽減及び薬物療法の有効性、安全性の向上を図るため、病棟において薬剤師が実施する薬剤関連業務を積極的に展開（こころ駒ヶ根、阿南病院、木曽病院、こども病院）
- ・ 感染防止地域連携病院との相互査察の実施（こども病院）

#### (患者中心の医療の実践)

- ・地域医療福祉連携室に社会福祉士を取得している福祉相談員の配置と医療相談によるセカンドオピニオン体制の維持(須坂病院)
- ・地域の高齢者のニーズに対応し、理学療法士の増員を含む訪問リハビリテーションの充実(再掲)(須坂病院)
- ・26年度に開始したセカンドオピニオンの適正な運用(こころ駒ヶ根)
- ・午後診療の継続と専門外来の開設を目指した医師確保(阿南病院)
- ・**⑧**病棟薬剤業務の本格実施及び薬剤管理指導業務の充実による安全かつ効果的な薬物治療の推進(阿南病院)
- ・がん相談支援センターによる、相談・情報提供機能の充実(再掲)(木曽病院)
- ・透析患者の増加に対応し、安全に透析療法等サービスを提供できる体制を整備(木曽病院)
- ・**⑨**平成28年度の成人移行期の慢性疾患患者に対する自立支援センター開設に向け、院内ワーキングチームにおいて検討(こども病院)
- ・**⑩**安全かつ効果的な薬物治療のための薬剤管理指導業務の充実(こども病院)

#### (患者サービスの一層の向上)

- ・患者の意見を収集する「意見箱」や出前講座などで収集している「須坂病院アンケート」による意見を、サービス向上委員会で共有し改善(須坂病院)
- ・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページで公開(須坂病院)
- ・広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等の掲載(須坂病院)
- ・**⑪**原則として4月から院外処方箋を発行し、院外調剤薬局との協働による医薬分業体制を構築するとともに、病棟薬剤業務等を強化(こころ駒ヶ根)
- ・リニューアルしたホームページの迅速な更新や病院だよりの発行による地域への情報発信(阿南病院)
- ・**⑫**医療費支払い方法の利便性向上のためクレジットカード支払いを検討(木曽病院)
- ・患者・家族を支援するチャイルド・ライフ・スペシャリスト及び患者サイドに立って患者からの相談等に対応する医療相談員による患者サービスの向上(こども病院)
- ・**⑬**病棟保育士1名を地域型職員に登用し、チーム医療における保育業務の専門性及び自立性を向上(こども病院)
- ・院外薬局との連携により院外処方せん発行率を向上(こども病院)

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

#### (組織・人事運営)

- ・ ㊦ 県立病院の円滑な業務運営に資するため、年度中途の異動の在り方について検討
- ・ 院長が年2回、各医師と目標や実績に関する面談を行い、病院目標達成に向けた動機付けや適正な能力開発に努める。(こころ駒ヶ根)
- ・ 病棟クラークを本格導入し医療の質の向上を図るとともに、患者の増加に柔軟に対応できる体制を整備(こころ駒ヶ根)
- ・ 病院独自に医師の業績評価を試行実施し、本格導入に向けた試行結果を蓄積(こども病院)
- ・ 現行の人事評価制度について、評価対象を医師へ拡大することや給与への反映方法の見直しの具体的な検討

#### (多様な働き方の支援)

- ・ 看護師が本来の業務に専念できる環境を確保するため、介護福祉士、看護補助者等を活用(須坂病院)
- ・ ㊧ 院内保育所の運営を委託化し、土曜日及び平日時間外の保育を充実(こども病院)

### 2 経営力の強化

#### (職員意識の向上)

- ・ 経営改善に取り組み安定した病院経営を行うため、月次決算をはじめとする経営指標について理事会などで確認するとともに、その状況の全職員への周知を徹底
- ・ 職員の能力向上と相互理解を深めるため、日頃の研究成果を発表する院内研究発表会開催(須坂病院)
- ・ 職員間の理解を深めるため院内新聞を発行(須坂病院、こころ駒ヶ根、木曾病院)
- ・ 病院経営への職員の参画意識を高めることなどを目的に、業務改善に関する提案などを職員から募集する「病院力アップ職員提案」を引き続き実施(機構全体)

#### (経営部門の強化)

- ・ 管理者会議、運営会議等でベンチマークとする病院(民間・公的・他自治体病院等)の指標について比較し、経営の質の向上
- ・ DPC病院として、DPC請求における精度の向上を図るとともに、診療科ごとの原価計算システムやQI(クオリティー・インディケーター)指標を利用し、病院経営分析を充実(こども病院)
- ・ 産業医科大学への訪問研究員の派遣、信州大学医学部附属病院との勉強会の開催などにより、DPC調査データの分析力や経営分析を行える資料の作成能力を向上させ、データを全職員が共有し、医療の質及び経営の質の向上を図る
- ・ ㊨ 診療報酬と原価の関係を把握し、より効率的な医療を提供するため部門別原価計算などの管理会計の導入について検討

#### (医療制度改革への対応)

- ・ ㊩ 今後県が策定する地域医療構想(ビジョン)に対応するとともに、新たな財政支援制度などについては、その動向を注視しながら制度の活用を想定した準備などを進める。



### 3 経営改善の取組

#### (年度計画と進捗管理)

- ・各病院長は、その付与された権限に基づき、各県立病院の医療機能を最大限に発揮するよう、P D C Aサイクルにより業務の進捗管理と経営改善を図り、年度計画の確実な達成に責任を持つ。
- ・各病院の月次決算の状況を的確に把握し、機構全体として経常損益及び資金収支の向上を図り、経営を安定化

#### (収益の確保と費用の抑制)

- ・臨床評価指標（クリニカルインディケーター）を公開
- ・医療の質評価指標（クオリティインディケーター）公開に向けた準備を実施
- ・産業医科大学への訪問研究員の派遣、信州大学医学部附属病院との勉強会の開催などにより、D P C調査データの分析力や経営分析を行える資料の作成能力の向上などを図るとともに、データを全職員が共有し、医療の質及び経営の質の向上を図る。
- ・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（再掲）（須坂病院、こころ駒ヶ根）
- ・健康管理センターにおいて昨年度に受診者が安心して健診を受けられるよう受審した、第三者評価の質を維持継続し、予約状況を容易に確認できる利用者の立場に立ったホームページのリニューアルや一泊人間ドックの宿泊先を近隣の宿泊施設への変更を検討（須坂病院）
- ・予防から健康増進までを想定した、総合健康管理センターの建設に向けて、基本設計・詳細設計を実施（須坂病院）
- ・クリニカルインディケーターを用いた分析や経営企画会議の開催の継続による、増収と費用削減への意識付けと各部門での実践（阿南病院）
- ・人間ドック受診者増加に向けた取組（須坂病院、阿南病院、木曾病院）
- ・材料、委託等の費用の見直しによる、経費削減の取組（5病院）
- ・薬品管理システムと統合して運用を開始した物流管理システムについて、預託方式のメリットを活かした、より細分化した診療材料費の払出し等による費用削減（こども病院）
- ・㊦診療材料メーカーを訪問して直接値引き交渉を行い費用を削減（こども病院）
- ・㊦システムを活用した診療報酬請求漏れ防止対策による、診療報酬請求事務の精度の向上（こども病院）

#### (情報発信と外部意見の反映)

- ・広報誌を須高地域に全戸配布するほか、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載（須坂病院）
- ・県立病院の取組や健康情報を広く県民に対しお知らせをする「公開講座」及び「出前講座」を積極的に開催するなど、地域への情報発信に努める。

第3 予 算 (略)

第4 短期借入金の限度額

- 1 限度額 20億円
- 2 想定される短期借入金の発生理由 賞与の支給等、資金繰り資金への対応

第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画 なし

第6 剰余金の使途 病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる

第7 その他県の規則で定める業務運営に関する事項 (略)